



農地再生レポート通信



発行：福島県耕作放棄地対策協議会 編集：福島県農村振興課 TEL 024-521-7380 FAX 024-521-7545 E-mail: nosonshinko@pref.fukushima.jp



今季のさわやかリフレッシュ



「耕作放棄地再生利用推進セミナー」を開催しました!!

福島県耕作放棄地対策協議会では、8月24日に湯川村の会津農業共済組合で、県、会津地方遊休農地活用推進会議との共催により「耕作放棄地活用推進セミナー」を開催しました。当日は、県内の各地域耕作放棄地対策協議会、農業関係団体担当者や農業者など約90人の出席がありました。

今回のセミナーでは、東日本大震災や東京電力福島第一原発事故の影響で作付けができなくなっている農地の代替として、各地域にある耕作放棄地の活用を推進するため、国の耕作放棄地再生利用交付金による支援策等について説明したほか、宮城県南三陸町で取り組まれている「被災者支援実証ほ」及び会津美里町における被災者支援策についての事例が報告されました。

南三陸町における「被災者支援実証ほ」設置で取りまとめ役となったJA南三陸営農生活部 阿部次長は、事例報告の中で「津波の被害を受けた農業者が営農を再開しようとするだけでも大きなエネルギーが必要。特に耕作放棄地を再生してとなるとさらに苦労が大きい。誰か本気になって支援してくれる人が必要。」と話してくださいました。

皆さんの地域でも営農再開を考えている被災者の方がいらっしゃったら、まずは相談に乗っていただきたいと思います。



全国初となる貴重な事例を報告していただいたJA南三陸の阿部次長

むらからまちから

喜多方市担い手育成総合支援協議会

の取組みを紹介いたします。

協議会の設立経緯

耕作放棄地等の再生利用を促進するためには、再整備などの初期投資の負担軽減を図りつつ、耕作放棄地と優良農地を含めて一定規模以上の面的集積を図り、新規就農者や企業も含め、意欲ある農業者に活用を促すことや、また、狭隘な農地が多い山間地域においては、集落ぐるみによる農作業の共同化や6次産業化を促進するとともに、都市と農山村の交流の場等の農産物生産以外の多様な手法による農地利用の促進を図る必要があるものと捉えてきました。

このような考えに立ち、担い手づくりと耕作放棄地等の再生利用を含めた農地の有効利用の取組みを一体的に進める体制として、市担い手育成総合支援協議会を母体とした耕作放棄地対策協議会を立ち上げました。



実証ほにおける「サフラン」の栽培

今年度の取組み状況

地域の担い手において、今年中に4ha程度の耕作放棄地を解消したい意向があることから、関係機関と連携を図り、再生利用に対する支援をする予定です。

特徴的な取組み

平成21年度から22年度にかけて、旧市町村単位(5地区、9.1ha)で農地の面的集積と地域特性を活かした耕作放棄地解消モデル実証ほを設置しました。

次年度以降の抱負・活動展開予定

市内の耕作放棄地は点在しているケースが多いため、耕作放棄地と優良農地を含めた一定規模以上の面的集積を図り、関係機関一体となって農地の利用集積を強力に推進していきたいと考えています。





いわき市植田町で企業等参入実践活動支援事業に取り組む


わたなべ (有)ベストクリーンの渡邊代表

にインタビューしました!!

(有)ベストクリーン 代表取締役
渡邊 哲也 氏

A

今後の耕作放棄地活用の展開について
お聞かせください。
.....
一旦、耕作放棄地になってしまうと、再生するまでに大変な手間がかかります。
地域の農業者が高齢化して営農が困難になると、優良農地が耕作放棄地になってしまいます。
そうなる前に、農業者から相談してもらい、農地をスムーズに引き継げるようにしていきたいと考えています。
現在も、数件の相談が寄せられています。

A

農業への取組みについてお聞かせください。
.....
昨年からは、周辺の農地50アールを借りて自社の社員とともに秋冬ネギの栽培を始めました。
今年はこちらを80アールに拡大し、今後は40アールの夏秋ネギにも取り組む計画で準備を進めています。
収穫したネギはJAいわき市を中心に出荷する予定です。
現在、「エンブアーマー」の申請中です。

A

耕作放棄地を活用して農業に参入したきっかけについてお聞かせください。
.....
厳しい農業情勢を反映し、耕作放棄地の活用について地域の農業者から区長である父のところに相談が多く寄せられるようになってきました。
私としては、地域の優良農地が荒れていくことは大変残念であり、農業への参入により雇用対策にもなることから、農業部門への参入を決意しました。

羅針盤 ~福島県・県協議会からのお知らせ欄~



~福島県からのお知らせ~

県では、失業者等求職者の新規雇用による耕作放棄地の再生利用等の業務を委託し、耕作放棄地の再整備から、地域振興作物等の導入による営農定着に至るまでの先導的な経営モデルを実証する事業（耕作放棄地再生モデル事業）を実施しており、今年度の受託業者を追加募集します。詳しくは、県の各農林事務所（農業振興普及部）までお問い合わせください。



~県協議会からのお知らせ~

東日本大震災や原発事故で避難されている方々が避難先などの耕作放棄地を利用して営農を再開する取組みを支援するため、今年度から「被災者支援実証ほ」を設置することが出来るようになりました。7月に入って、県内はもとより県外へ避難された農家の方からも多数の問い合わせをいただいています。避難者を受入れている市町村の地域協議会におかれましては、被災された農家の方から問合せ等がありましたら県協議会へも御一報ください。



日頃より耕作放棄地対策の推進にご尽力頂き、厚くお礼申し上げます。本号から編集担当が代わりました。皆様の取組みに少しでも役立つような情報を発信していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、
nosonshinko@pref.fukushima.jp までご連絡ください。